

時^きの動^き

安倍政権の反動姿勢に抗して

— 政・官・財・労・学・マスコミ一体の —

労働大学副学長 市原 芳樹



第3次安倍政権は、2014年12月24日の発足時から、多数を背景とした暴政といわれる政権運営を進めています。その政治手法は無頼漢然として突っ走っています。

その背景には、73年以降国家独占資本主義の破綻が抱えた体制的矛盾の深化、窮乏化作用の浸透（脆弱点の露出）、があります。さらに、先の衆議院選挙で自民党に絶対的多数を許したことを挙げることでできません。

強権を発動する安倍自公政権は、背景に日本経済の低迷と、外交における国際的孤立・地位の低下（影響力）があります。多国籍資本の活動を地球規模で進める大資本の擁護と軍事的保障、これが要の政権運営にならざるを得ないからです。その上

げとして準備しているのが、現行憲法の明文改憲です。

日本経済は国内の低迷をよそに、日本の多国籍資本は空前の「内部留保」を蓄えるまでに肥え太っています。膨大な資本蓄積は、大衆、とりわけ労働者の貧困の蓄積を招き、生活保護世帯の急増や年収が200万円以下の非正規労働者という貧困層の拡大になって表れています。餓死者が出てもおかしくない情勢です。ここに安倍自公政権のアキレス腱、脆弱点があります。

「特定秘密保護法」成立、「集团的自衛権行使容認」閣議決定、今国会で関連法案の成立を急ぐのは、資本主義の矛盾の激化を新自由主義政策では解決できない体制的

ジレンマがあります。一方、階級闘争の後退は、社会の腐朽化、寄生性の進行を助長し、富める者と貧しき者に大きく二分されています。経済を土台の政治手法は、新自由主義的な反動的再編、ナシヨナリズムへの急速な傾斜、排外主義として現れるのは歴史の必然です。そして、良心的であった左翼陣営と目された人々の日和見主義への傾斜がさらにこれを許しています。

自民党は「憲法改正（悪）」が党是ですが、歴代内閣は、憲法を完全に無視すること、踏みに行うことができませんでした。現行憲法を無視し、教育基本法を土足で踏みにし、政権の維持・延命手段として利用しようとするのは、安倍が初めてだといえます。ここに安倍政権の脆弱点がある

と考えます。

「反転攻勢は

実態の直視から脆弱点を掴む

経済的にも政治的にも脆弱点を抱える現政権に鉄錐を下せるのは労働者階級を除いてありません。労働者の反転攻勢を進める条件は、政治、経済、社会の全般的反動の実態把握、敵の脆弱点を見抜き、内部矛盾を敵対矛盾に転化する主体の確立強化にあると考えます。

「集団的自衛権」「特定秘密保護法」「消費税増税」「社会保障改悪」「教育基本法改悪」「労働法制改悪」「原発再稼働」「辺野古新基地建設」どれをとっても、改悪・強行に、反対する人が多いことは、ブルジョアマスコミの世論調査で明らかです。労働者・家族の生活実態は悪化の一途にあります。政・労（連合）・資があればほど大騒ぎした「15春闘」は、絶対的多数の労働者・勤労国民の消費を喚起させる賞上げではありませんでした。厚労省の生活実態調

査でも消費生活は2年に亘り下降線をたどっています。併せ考えたいのは現政権の歴史認識があります。さらに「陸海空軍その他の戦力は保持しない」という9条の第2項を無視し、安倍や菅が自衛隊を「わが軍」と呼びました。

あらゆる階級闘争は政治闘争である

階級闘争が全面的に後退し、全社会の腐朽が進行している中で、平和革命を追求する新社会党の強化、政治的・経済的闘争の物質的基盤である全労協を中心とした労働運動の強化が急務です。労働者階級が「社会の主人公である」とする唯物史観によって階級思想を確立する任務を、労働大学、労働大学まなぶ友の会の大衆学習運動が担っていることに確信を深めたいと思います。反転攻勢に転じるためには、先ほど上げた課題に集中して反撃し、労働者運動として組織することだと考えます。人類の生存の危機・地球の破壊と絶対的貧困の累積、格差拡大、福島原発事故、再稼働の動

き、差別の再生産、環境破壊と汚染、と社会は負の連鎖に陥っています。

「哲学者たちは世界をたぐさまさまに解釈してきただけである」とマルクスは言いました。歴史を変革する任務とこの必然の任務＝歴史的使命を負った労働者階級に敗北はありません。変革の先頭に立ちあがろうではありませんか。唯物史観の要諦はここにあります。

レーニンは、「あらゆる階級闘争は政治闘争だ」とし、我々にその果たすべき任務を示しました。今こそ、万国の労働者団結せよ！プロレタリア国際主義の思想の確立、指導部、活動家集団の組織化、労働運動、大衆運動の組織化等坦々とした道ではありませんが、我々の歴史的任務に確信を深めましょう。

私も再建労大の歴史的・階級的任務として、自分の孫やこれからの社会を担う若者たちに「禍根」を残さないため精いっぱい奮闘して「平和な日本」を、世界の労働者と連帯し、平和な世界づくりにまい進するつもりです。（いちばら よしき）